

令和7年度 調布市立上ノ原小学校 学校評価報告書（学校長 釜池 秀男）

学校の教育目標

◎よく考え 進んで学習する子ども ○思いやりをもち 仲良くする子ども ○健康で 明るく元気な子ども

目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像

目指す学校像 【笑顔あふれる楽しい学校】

(1) 児童にとって 「よこびのある毎日が送れる学校」

- 【日々】 ・学んで分かるよこび ・友達と関わることのできるよこび ・心を解放して体を動かすよこび
- 【長い目で】 ・自分の成長が実感できるよこび ・自分の存在が認められるよこび ・自分の将来に希望がもてるよこび

(2) 保護者, 地域にとって 「安心して任せられる私たちの学校」

- よく見える学校→教育活動の積極的な発信 ・安心できる学校→素早く, 丁寧で誠実な対応 ・私たちの学校→協力, 協働の取組
- (来校機会確保, 学校 HP, すぐーの活用) (子どもの成長を願って共に悩み, 喜び) (コミュニティ・スクール, 学校を核とした地域づくり)

(3) 教職員にとって 「楽しくやりがいのある職場」

- 風通しのよい明るい職場 ・やりたいことができる職場 ・成長できる職場
- (まずは挨拶, コミュニケーションをしっかりと) (できない, やらない理由を作らずにチャレンジ) (学び, 成長する機会の確保 職に誇りと責任を)

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

	1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
自己評価	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
	①教科担任制や交換給食を通して子どもの良さを多面的・多角的に見取り, 自己肯定感・自己有用感を育む。	①週ごとの指導計画を作成, 提出し, 計画的な指導を行い, 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図る。	①挨拶を核とした基本的な生活習慣の定着を図る。
	②集団への所属感を高め, 充実した学校生活を送るために行事を改善する。また, 道徳授業改善のためにローテーション授業を行う。	②主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善, 子どもを主語にした学習を推進する。	②栄養士による給食メモ, 養護教諭による保健指導を通して, 心身の健康の保持増進に関する意識を高める。
	③学校生活アンケートを毎月実施するとともに児童や保護者の声に耳を傾け, 素早く丁寧で誠実な対応をし, 心の居場所づくりに努める。	③一人1台モバイル端末を効果的に活用し, 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。	③ねらいを明確にし, 運動量を確保した体育授業を行うとともに, 持久走週間・なわ跳び週間等の体育的活動を通して体力の向上を図る。
(2) 成果(数値目標に対して→結果)	(2) 成果(数値目標に対して→結果)	(2) 成果(数値目標に対して→結果)	
①市・魅力ある学校づくり調査「学校が楽しい」55%以上 →55%	①国・学力調査・平均正答率国語 70%以上・算数 70%以上→国語 71% 算数 63%	①保護者アンケート「お子さんはすすんで挨拶ができる」A 評価 35%以上 →31%	
②市・魅力ある学校づくり調査「みんなで何かをするのは楽しい」70%以上→68.6%	②市・魅力ある学校づくり調査「授業に主体的に取り組んでいる」45%以上→37.3%	②都・体力調査「朝食を毎日食べる」90%以上, 「毎日8時間以上寝ている児童」70%以上 →朝食 92%, 睡眠 75%	
③保護者アンケート「子供たちが安心して生活できる」A 評価 60%以上→54%	③市・魅力ある学校づくり調査「授業がよく分かる」50%以上→49.3%	③都・体力調査「体力合計点」東京都平均以上を達成した学年(男女別) 50%以上→33%	
学校運営協議会評価	<ul style="list-style-type: none"> 教科担任制や交換給食の実施により, 担任だけでなく学年の教員全員が児童を見守る体制が整っていることは, 子どもたちの安心感につながっているものと思われる。 スポーツ大会や移動教室は集団行動や共同作業など, 協調性や社会性を身に付ける機会である。教員が懸命に内容を考えたり指導しているため, とても充実したものになると思う。 学校アンケートや保護者, 児童一人一人にとっても丁寧に対応している。また, ステップルームに来る児童は全児童数からすると少人数だが, 教員が関わっているため安心して居場所になっている。 アンケート等を通して児童や保護者の声に丁寧に耳を傾け, 学校として組織的に, かつ迅速で誠実な対応を行っていく姿勢を今後も大切にしていきたい。教科担任制・学年担任制の特性を生かし, 児童の小さな変化を見逃さず, 適切な声かけを行うとともに, 教員間および保護者との情報共有を一層充実させていくことが期待される 学年担任全員が共通認識をもち児童全員と関わることで, 担任が不在になる時にも問題なく対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別最適な学びや協働的な学びなど, 試行錯誤を重ねながら様々な先進的な取組を進めている点は評価できる。一方で, その土台となる基礎学力(読み・書き・計算等)については, 引き続き丁寧な支援の継続と充実が望まれる。 主体的・対話的で深い学びを実現するために, 個別最適な学びと協働的な学びを行なうことにより, 授業の事前準備, 授業中は個別の進み具合や質問に対応など, 一斉授業とは違う難しさがある。教員は指導計画を作成し研究授業をするなど, とても努力していることが参観を通して分かった。 授業改善に向けた研究会においては, 目指す学校像(ビジョン)を踏まえた授業計画が検討されており, 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に推進しようとする姿勢が確認できた。今後は, 児童がより主体的に学習に取り組めるよう, 学習意欲を高めるための工夫や働きかけを一層充実させていくことが望まれる。 目まぐるしい日々の中, 研究授業に努力を重ね教員全体が向上する姿勢に感謝している。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶は生活の基本であり, 子どもたちの成長にとって重要な習慣である。保護者や地域と連携したさらなる取組の充実が期待される。 朝に校長が校門に立ち挨拶をしていることで, 進んで挨拶をする子どもになると思う。 給食は子どもにとって, 学校での楽しみの一つである。郷土料理や外国の料理などメニューが豊富で美味しい給食に感謝している。 あいさつについては, 「させる」指導にとどまらず, 行為を通してその意味が育まれていくことを意識し, あいさつが自然に生まれる「場」をいかにつくるかという視点を大切にしていきたい。また, 体力向上に関しては, 体育の授業に限らず, 日常生活の中での運動量を増やすための意識付けが求められる。学校だけでなく, 家庭や地域と連携した取り組みを進めていくことが重要である。 校内で元気に挨拶ができる児童が増えていると感じる。日頃の教育指導や教員対応の結果だと思う。

学校の特徴を生かした領域 <短期的な経営目標>

	4 保護者・地域との連携	5 美しい環境の学校づくり
自己評価	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
	① 保護者の来校機会を毎月確保する。HP を年間 200 回更新する。	①靴箱の靴をそろえることや清掃の指導を継続して行う。
	②学校運営協議会と協議を重ね, 地域とともにある学校づくりを進める。	②FF 暖房機撤去, 教室ロッカー, 壁, 掲示板の改修を計画的に行う。
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
①保護者アンケート「家庭で学校の出来事が話題になる」A 評価 55%以上→54.9%	①靴箱の靴がそろっている学級, 清掃が行き届いた学級 55%以上→57%	② 保護者アンケート「教育環境の整備に努めている」A 評価 45%以上→44.5%
②保護者アンケート「地域・保護者と協力した教育活動」A 評価 55%以上→55.3%		
学校運営協議会評価	<ul style="list-style-type: none"> ホームページが充実しており, 学校の様子が分かりやすく発信されている点は評価できる。一方で, 各学校行事後のアンケートについては, 今年度より集計結果が保護者へ公表されていないことから, 可能な範囲で結果を共有する方法の検討が望まれる。 毎学期, 学校公開があり多くの保護者が参加しているため, 関心の高さがうかがえる。 学校からの情報発信は積極的に行われている一方で, 教員と保護者との関係性については, やや距離感が感じられる。今後は, 相互理解を深めるための工夫や機会の充実が期待される。 ホームページは充実しており, 常に発信し行事や生徒の様子がよくわかるよう努力をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の老朽化が進んでいる箇所も見られることから, 校内環境の維持・向上に向けた定期的な清掃や整備の充実が望まれる。 寒い冬でも, 子どもたちが廊下の雑巾掛けをしているのを見かける。一生懸命やっている姿に感心する。 施設・設備の老朽化に加え, 児童数の多さから, 快適性の面で課題が見られる。日々の清掃活動においても, 衛生面で十分とはいえない状況がうかがわれた。教室内の整理整頓については教員個人に委ねるだけでなく, 管理職による定期的な点検を行うなど, 組織的に教育環境を整え, 事故防止に努めていく対応が求められる。 老朽化も数ヶ所あり気になりますが, 予算の都合で要望が全て通る事は厳しいようです。数ヶ所女子トイレが新しくなり児童が喜んでいました。少しずつでも改善される事を願います。

人材育成・組織運営

自己評価	<p>○授業力の向上 ・全学年6学級で研究授業を実施し、授業力向上につなげた。・校内授業公開を65回以上実施することで学び合いの機会を確保できた。</p> <p>○校務分掌等の活性化 ・教務主任，生活指導主任，研究主任を中心とした経営会議を核とした組織運営を推進した。</p> <p>○服務規律の徹底 ・定期的な研修や個人情報取り扱いの自己チェックシート等を活用し，教育公務員としての自覚と人権意識を高める取組を進めた。</p> <p>○ワーク・ライフバランスの推進 ・Teams等を活用し業務を効率化させ，時間外在校時間が45時間以内の教員の割合は88%であった。</p>
学校運営協議会評価	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業や校内授業公開などを実施しながら、教員が授業力の向上に向けて前向きに取り組んでいる様子が見受けられる。 ・懇親会や地域行事への参加など、教職員の仲が良く、職員室の雰囲気も和やかに感じる。 ・研究授業が積極的に実施され、組織として授業力の向上を図ろうとする姿勢が確認できた。課題を整理し、教員が方向性に迷うことなく改善に向けた取り組みを実践・共有している点は高く評価できる。また、授業公開は、保護者の学校教育への理解を深めるとともに、教員との信頼関係構築にも寄与していると感じられた。今後、保護者と教員の心理的な距離をさらに縮めるためには、保護者が学校教育の現場をより身近に感じられる機会（タッチポイント）を意識的に増やしていくことが必要である。こうした取り組みは、教職員が安心して働ける環境づくりにもつながると考えられる。 ・研究授業は充実し教員全体の意識引き上げ新しい事への取り組みも感じる。一体感もあり努力がみえる。

中期的な経営目標の達成状況

1	自他の命を大切にし，人と人との良い関係を築く力の育成については，ペア学年交流や日々の授業，行事において児童同士の関わる場面を増やすように改善が進んでいる。
2	自ら課題を発見し，解決していく力の育成については，校内研究を通して児童の主体性を育むための授業改善を継続することが課題である。
3	心と体を鍛え，前向きに行動する力の育成については，体力テストの数値において課題がみられた。体育行事委員会を中心に体力向上の取組を進める。
4	学校・家庭・地域が協働して子どもたちの豊かな成長を支えていく学校づくりについては，学校運営協議会での熟議を通して，課題について共有できてきた。
5	美しい環境の学校づくりについては，一部トイレの改修等を行うことができた。美しい環境づくりについて，児童，教職員の意識を高める必要がある。
人・組	授業力の向上・校務分掌の活性化については，教科担任制やICTシステムの活用，校内研究を活性化させることができ，改善が進んでいる。

次年度の重点課題

○挨拶を核とした基本的な生活習慣の定着 ○個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ，主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善 ○コミュニティ・スクールの取組